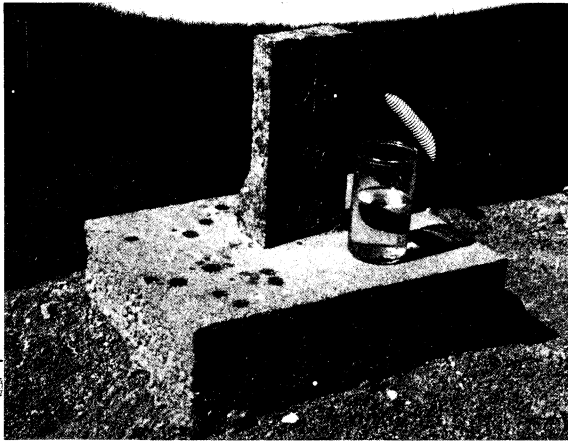


資料室だより Vol. 3

No 15. 1987.9



大磯町立図書館
郷土資料研究室

大磯町大磯992番地
TEL.0463-61-3002

イ ド ガミ サ
井 戸 神 様 (渡辺一則宅)

屋敷に鎮る神々 ～西小磯の稻荷様～

渡 辺 長 吉

私たちの住む西小磯には、お稲荷さんが56社あります。ふだんはごぶさたがちで、くもの巣がかかったり、ほこりがたまったりしていますが、2月がくるときれいになります。少年の頃、いなりこの朝は早く起き、つとこに赤のごはんをもり、近所のおいなりさんにあげに行った。いなりこの宿をやる家では庭に大きな幟を建てた。根元を榊でいっぱい巻きつける。これは稲荷の森をかたどったものでしょう。床の間に掛軸をかけ、講中の者が集まってお祝をした。昔はごちそうが何よりですが、朝昼晩3食家内呼びでしたから大変でしたでしょう。それでも隣近所の大人も子供もみんな集って会食をしたのですから

それは楽しいものでした。今でもこの土地には、高砂に3組、大西・西本郷・田中に各々2組の合わせて9組が残り、各々思い思いの祭り方をして楽しんでいます。今回はその講中の幟や仲間を紹介しながら、各家にある稲荷様の姿やいわれなどを記してみました。

稲荷様は山や林の中で田を見おろせる処に祀られていたもので、春になると山や林から出て田に降り、秋の取入れがすむとまた山や林にかえっていかれる山の神と同神とも言われます。ですから城山や六本の山の上にあたり、西中道の畠の中にありますが、多くは屋敷の中に祀られています。従って、毎日の生活の中で切っても切れない親しみと尊敬の対象になって私たちを見守って下さるものと思います。

よいご縁のあります様にお祈りします。

○調査は、西小磯西地区を対象に昭和53年2月に実施した。また、昭和62年9月に再調査をおこなった。なお、記載はなるべく稲荷講の組ごととした。

仲手川藤吉家

中に次のような書物があった。稲荷様に仕える聖の来訪をうけ、藤右衛門氏が寄進したものである。

正一位稲荷大神明安鎮之事
右雖為本宮之奥秘依
各別之願望略式修封
丞 嚴靈令授予為
祭祀慎之莫怠也
管目代
正位衛伯考守前田信慶
安政七年正月 豊日
相州陶綾郡小磯村中手川藤右衛門殿



仲川清年家

次のような話があった。長男が生まれてまもないとき、華丸が赤くはれあがってしまった。あわてていたところ、稲荷様のまわりがよごれてそのお叱りであるとお告げがあった。急ぎ掃除をしてあやまったら、忽ちに治った。

また、暮れの餅つきの時、新宅の嫁さんが子どもを連れて手伝っていた。すると突然そばの石が倒れて足が下敷になり、骨が折れそうであった。そのとき子どもが稲荷さんの前をよごしていることがわかり、急いで水を流して清めたところ、骨も折れずにすんだ。あらたかな稲荷様だと大切にしている。



渡辺長吉家

稲荷のほか、金神様が祀られている。方位の神様で常に地所を守って下さる。



コンジサン
(金神様)



正一位稲荷大明神 高砂
天保四歳 當処
癸巳二月吉日 構中

箱の中に

浅右衛門 五左衛門
市兵衛 清助
儀左衛門 勘助

と書いてある。

今は添田俊蔵家・仲川清年家
仲手川藤吉家・渡辺長吉家の4軒

渡辺広平家

国道の南屋敷にある。もとは土手の高い処にあった



添田治雄家

土手の高い処に建つ。



岩田作造家

ツバキの木の下に建っている。



岩田一彦家

稲荷のほか、牛観音が祀られている。



(牛観音)



○奉納稲荷大明神 高砂講中
嘉永四年辛亥二月初午

奉祭礼稲荷大明神氏子繁昌祈所 白 敬
享保五年庚子 天仲春吉日
天下泰平國土安全相州余綾郡西小磯高砂氏子

この講は、渡辺
広平家・岩田一彦
家・岩田作造家・
添田治雄家の4軒
左の幟は小磯で一
番古いものです。



渡辺則昭家

富士見稲荷と記されてある。



配島一雄家

木村稲荷と書いてある。元、この土地に住んでいた方が木村氏であった。



仲川卯之助家

この稲荷社は、もと添添田浅右衛門家のものであった。添田家なき後、仲川家で祀っている。



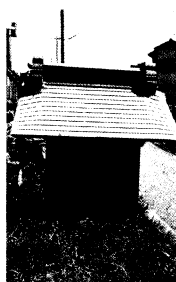
仲手川定三家

4代前の久右衛門が祀ったもので、夢枕に音羽稲荷であると告げられた。以前、松林の中にあったが、屋敷中に移す。時に家中で病氣をする者があったので、願をかけたところそれが叶えられたので石造りにした。不思議な験がしばしば現れるあらたかな稲荷様としてあがめている。



小見 滋 夫家

屋敷の鬼門にあたる場所に建つ。



添田庸一郎家

川の向こう屋敷に祀る。



仲川 修 二家

掛軸に次のように記されている。

佐 助 別
稲 荷 當
華 大 竜
興 明 興
院 神 山



野 寄 素 弘家

もと、仲手川茂左衛門家のもので、身内の遠藤氏が引取られたが再び元屋敷に返したいとのことで来られた。なかなかあらたかで、粗末にはできないと、大切にしておられる。



波多野須美子家

石祠、一部破損している。



二挺木一郎家

嘉永7年寅月吉の銘がある。なかなかやかましい稲荷様だといつかつてはご神木の松が立っていた。

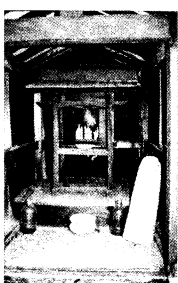


渡 辺 俊 雄家



浜 口 正 策家

カヤ、ケヤキの太木の下に建っている。



西 川 平 吉家

祠のほか、石棒をご神体としている。



二挺木ミツ家



柳 田 常 雄家

かつては西方正一家の稲荷だったが、転居後は柳田家が管理している。



渡辺鉄雄家
稲荷のほか、個人で祀る
道祖神がある。右が道祖神。

丙 文化十三
奉獻稲荷大明神宝前
高砂
子 二月初午日
講中

大正6年の幟には
渡辺鉄五郎・渡辺音七
小見甚太郎・西方吉五郎
仲川銀次郎
と書いてある。
今は渡辺鉄雄家・渡辺哲二家
西方和吉家・小見良策家の4軒。



渡辺二郎家
もと、東海道の南側
に住んでいた時は渡辺
新太郎家と合祀してい
た。今の処に住む様
になると夢枕に出て北
に移りたいとのお告げに
より移した。



堀口伸雄家



西方隆次家



堀口庄平家



渡辺春次家

明治九年二月吉日
奉獻稲荷神社祭典
当村 西町 桂謹書

この講は、西方隆次家
渡辺一夫家・渡辺春次
家・鈴木賢造家・堀口
庄平家・堀口伸雄家・
渡辺二郎家の7軒。



西方朝二家
城山の登り道にある



西方正義家



西方権一家



仲出川長松家
稲荷のほか「いぼ
神様」「せきの神」が
ある。左がいぼ神様。

(いぼ神様)
そばにある、みかけ
の石を持っていき、
毎日2.3度なでると
20日ぐらいでとれる
という。
仲出川忍右衛門
寛政11年9月吉日の
銘あり。



(せきの神)

もとは山の上にあ
ったが三井家を買
われ今のところ
に移された。
仲出川兵衛門の
銘あり。

昭和九年 講中
奉納正一位稲荷大明神
二月十一日
仲出川長松
西方朝二
西方春吉
西方亀太郎

この講は下記の4軒。



岩田 邦勝家
ウチノボリ
家幟に、妙法稲荷と
書かれてある。おじい
さんの妹で前川に嫁い
だ人が夢枕に出られた。
法華宗だったので妙法
の文字が使われた。



西川 秀夫家
かつては土手の高い
処にあったが下へ移転
した。



秋葉 豊治家



仲出川次郎家

夜泣きをして困
る赤子にきくと言
われ、昔からよく
お参りがあった。
今でもお参りに来
られる方もある。



二槌木武司家

奉
納
正一位稲荷大明神
安政五歳 相州西小磯
戊午初午 本郷西町

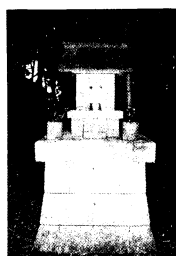
この講は、二槌木武司家、仲出川
次郎家、仲出川潔家の3軒。

乙文化二年
稲荷大明神
巳二月吉日

この講は、西方伝吉家・岩田邦勝家
西川秀夫家、秋葉豊治家の4軒。



西方 宏家
山の中にある。



秋山亥之吉家
西森稲荷と呼ば
れている。



二槌木 彰家

不運のときみてもらったら、
鉄道工事で足を痛めた、身内に
足の悪い人が出ると言われ、平
塚の豊川さんにたのみ、この社
を祠った。



二槌木久二家

祠が2つ並んでいる。
また、屋敷内の稲荷の
ほかに、道祖神のと
ころにある稲荷を所
持者がいないため
に二槌木家で管理
してきた。近所の
人がお参りをし
ている。



小見 健次家
藪の中に位置す
る。



池谷 新惣家
最近祠を新しく
している。

仲手川藤三家



裏の土手に、稲荷社とともに富士浅間様が祀られている。
吉田さんの山にあったが、
夢枕にでて、ここに来
られた。

(浅間社)



富士講中
西之宮庄五郎
天保十二年辛丑年
四月十二日
西小磯村

渡辺 厳家

城山の頂に近い
ところにある。

岩田 兼作家

かつては唐沢の
元屋敷にあった。





添田 良 司家
もと表鬼門にあったが屋敷南側に移した。



添田 栄家
以前は特別な信仰をしていたという。添田正勝家と合祠している。



添田 英雄家

この講は下記の5軒でおこなっている。

大正三 甲寅
奉納稲荷大明神
二月 初午
池谷仁助
添田扁次郎
池谷豊次郎
添田富五郎
添田廣吉



池谷 貞 夫家
元屋敷の六本松のところにある。
寛政4年の銘あり。稲荷のほかにおミヤサン(東照大権現)とセーノカミサン(道祖神)を祠っている。

(東照大権現)



(道祖神)



この講は
添田利兵衛
添田磯五郎
添田勘助
小見金左衛門
小見三千五郎
仲手川平左衛門
の名がみられるが
現在は、添田性吉家、仲手川フミ家、小見一雄家、小見省二家の4軒。

文久二壬午 相州西小磯
奉献 稲荷大明神 本郷田中
戊二月初午 氏子中



添田 性 吉家
7~8年前に「砂取場」の畑中にあったのを移転した。



仲手川フミ家
かって稲荷のほかに地蔵があったが、小田原へ葬ったという。



小見 一 雄家
西中道の畠の中あらたかな稲荷様とのこと。



小見 省 二家
稲荷の傍に難除地蔵を祀っている。



ヤクヨケ
(難除地蔵)



小 沢 辰 二家
最近、元屋敷の二宮より移した。動かすにあたっては、二宮のアズマサンにみてもらった。

～寄贈資料(7月～8月)～

ご協力ありがとうございました。(順不同・敬称略)

資 料 名	受 入 先	地 区 名
マグロ箱他	飯 田 政 尚	大 磯
レコード・古写真	加 藤 嘉 義	大 磯
丸山講資料一括他	関 野 好 一	大 磯
アンカ他	島 村 行 成	国府本郷
漁具一括	平 田 寅 吉	大 磯
ミズガメ他	真 間 正 太 郎	大 磯
石斧	東 信 吉	

～資料室のうごき～

7/7・14・21・28

郷土資料館定例会

9・10

文化財虫菌害保存対策研修会

24～25

文化財視察(調布市・三芳町・国分寺町各資料館)

8/3・10・17・24・31

郷土資料館定例会

4・5・6

子ども歴史教室

昭和62年9月30日 発行

編集発行 大磯町教育委員会社会教育課

所 在 地 大磯町東小磯183

T E L 0463 (61) 4100